

ISO45001について

(労働安全衛生マネジメントシステム)

中央労働災害防止協会
教育推進部
営業推進センター
齊藤信吾

中央労働災害防止協会（中災防）

1. 労働災害防止団体法に基づき設立
2. 厚生労働省所管の特別民間法人
3. 主な事業

各種安全衛生研修・セミナーの開催

図書、ポスター等の販売

専門家による技術支援

ゼロ災運動の展開

等々

ISO45001 (OHSMS)

1. 2016年9月発行予定
2. ISO/PC283 (プロジェクト委員会) で作成中
3. 企業のOSHMS運用基準 (認証基準でない)
4. OHSMS (労働衛生安全) と表記

ISO化の経緯

1997年 ISO技術管理評議会

「ISO化は当面見送る」

2000年 ISO技術委員会設置提案

賛成29 反対20 棄権3 否決

2007年 ISO作成 加盟国アンケート

賛成13 反対10 棄権1 否決

2013年 ISO新業務項目提案

賛成30 反対8 棄権7 承認

ISO化の背景

1. OHSAS18001の伸展

127か国、認証90,000件超

2. ILO(国際労働機関)の方針転換

反対から協調へ

2013年8月ISOと合意書を締結

2月から相互協力の文書を交換

ISO発行の手順

1. 提案の受理



2. 作業原案(WD)



3. 委員会原案(CD)



4. 国際規格原案(DIS)



5. 最終国際規格案(FDIS)



6. ISO発行

4回の草案
を経る

省略可能

ISO/PC283の構成

ISO作成のための

283番目のプロジェクト委員会

(2015年1月現在)

プロジェクト(P)メンバー: 54カ国 ← 日本

オブザーバー(O)メンバー: 16カ国

リエゾン: 15組織

(ILO、IOSH、他のISO/PC等)

ISO/PC283会議開催地

第1回ロンドン

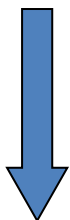


第2回カサブランカ

第3回ポートオブスペイン

ISO/PC283の経緯 1

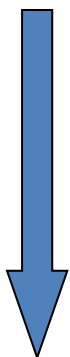
1. 提案の受理



ISO/PC283設置 2013年6月

第1回ロンドン会議 2013年10月

2. 作業原案(WD) → 回付 2013年12月



PCメンバー各国からコメント募集

第2回カサブランカ会議 2014年4月

CD案回付 7月1日 投票15日

3. 委員会原案(CD)

ISO/PC283の経緯 2

3. 委員会原案(CD) → 回付 2014年7月



PCメンバー各国からコメント募集
次段階への承認

第3回トリニダード会議 2015年1月

3. 委員会原案(CD2) → 回付 2015年3月？

PCメンバー各国からコメント募集
次段階への承認

第4回会議 2015年7月？

プロジェクト委員会と国内審議委員会

ISO45001作成

ISO/PC283



ワーキンググループ



TG1

TG2

TG3

TG4

TG5

TG6

タスクグループ

日本のコメント作成

国内審議委員会



国内ワーキング
グループ



日本代表エキスパート

タスクグループ(TG)の検討内容

TG1: 組織、リーダーシップ、支援

TG2: 計画 (株)テクノファ: 平林氏)

TG3: 運用

TG4: パフォーマンス評価、改善

TG5: 用語の定義 (中災防: 齊藤)

TG6: 序文、適用範囲

(日本規格協会: 古野氏)

代表エキスパートは、各国3名まで。



国内審議委員会メンバー

向殿政男 明治大学 名誉教授 (委員長)

日本機械工業連合会

日本経済団体連合会

日本労働組合総連合会 (連合)

日本適合性認定協会 (JAB)

日本マネジメントシステム認証機関協議会

建設業労働災害防止協会

中央労働災害防止協会

オブザーバー: 厚労省、経産省

事務局: 日本規格協会

国内審議委員会の概要

1. 国内の対処方針案の検討、作成
2. 日本代表委員の決定と派遣
3. 国際標準化に必要な調査、検討、調整
4. PC283へのコメント作成

国内審議委員会の経緯

第1回国内審議委員会 2013年10月

第1回ロンドン会議



第2回国内審議委員会 2014年3月

第2回カサブランカ会議



第3回国内審議委員会 2014年5月

第4回国内審議委員会 2014年10月

第5回国内審議委員会 2015年1月

第3回トリニダード会議

第6回国内審議委員会 2015年3月

ISOのMS作成の原則

「共通テキスト」を必ず使用する

1. ISOのMS規格の**共通文書**
2. 2012年公表、以降は必ず使用
3. 章立て、文書、用語の定義は
変更不可
4. 文書や下位条項は追加可能

共通テキストと各MS規格

共通テキスト

+

品質
要求事項



ISO9001

+

環境
要求事項



ISO14001

+

情報セキュリティ
要求事項



ISO27001

+

労働安全衛生
要求事項



ISO45001

共通テキストの章立て

序文

1. 適用範囲

2. 引用規格

3. 用語と定義

4. 組織の状況

4. 1 組織及びその状況の理解

4. 2 利害関係者のニーズ及び期待の理解

4. 3 XXXマネジメントシステムの適用範囲の決定

4. 4 XXXマネジメントシステム

5. リーダーシップ

5. 1 リーダーシップ及びコミットメント

5. 2 方針

5. 3 組織の役割、責任及び権限

6. 計画

6. 1 リスク及び機会への取組み

6. 2 XXX目的及びそれを達成するための計画策定

7. 支援

7. 1 資源

7. 2 力量

7. 3 認識

7. 4 コミュニケーション

7. 5 文書化された情報

7. 5. 1 一般

7. 5. 2 作成及び更新

7. 5. 3 文書化された情報の管理

8. 運用

8. 1 運用の計画及び管理

9. パフォーマンス評価

9. 1 監視、測定、分析及び評価

9. 2 内部監査

9. 3 マネジメントレビュー

10. 改善

10. 1 不適合及び是正措置

10. 2 継続的改善

共通テキストの例(方針)

5.2 Policy

Top management shall establish a XXX policy that

- is appropriate to the purpose of the organization
- provides a framework for setting XXX objectives

- ※ XXXに環境、品質、労働安全衛生等が入る
- ※ 必要に応じ加筆する

委員会原案(CD)の例

5.2 Policy

Top management shall establish an OH&S policy that:

- a) is appropriate to the purpose of the organization
and to the nature of the organization's OH&S risks
and opportunities;
- b) provides a framework for setting and achieving the
organization's OH&S objectives;
- c) Includes a commitment to . . .

下線: 共通テキスト 下線なし: OSHとして追記

各国の意見、ILOガイドライン、OHSA18001等を参照

委員会原案(CD)の例

5.2 方針

トップマネジメントは、次の事項を満たす安全衛生方針を確立しなければならない。

- a) 組織の目的及び組織の安全衛生リスクや opportunitiesの性質に対して適切である。
- b) 組織の安全衛生目標を設定し、達成するための枠組を示す。

下線：共通テキスト

下線なし：OSHとして追記

日本が参加したTIGの検討箇条

序文

1. 適用範囲

2. 引用規格

3. 用語と定義

4. 組織の状況

- 4. 1 組織及びその状況の理解
- 4. 2 利害関係者のニーズ及び期待の理解
- 4. 3 XXXマネジメントシステムの適用範囲の決定
- 4. 4 XXXマネジメントシステム

5. リーダーシップ

- 5. 1 リーダーシップ及びコミットメント
- 5. 2 方針
- 5. 3 組織の役割、責任及び権限

6. 計画

- 6. 1 リスク及び機会への取組み
- 6. 2 XXX目的及びそれを達成するための計画策定

7. 支援

- 7. 1 資源
- 7. 2 力量
- 7. 3 認識
- 7. 4 コミュニケーション
- 7. 5 文書化された情報
 - 7. 5. 1 一般
 - 7. 5. 2 作成及び更新
 - 7. 5. 3 文書化された情報の管理

8. 運用

- 8. 1 運用の計画及び管理

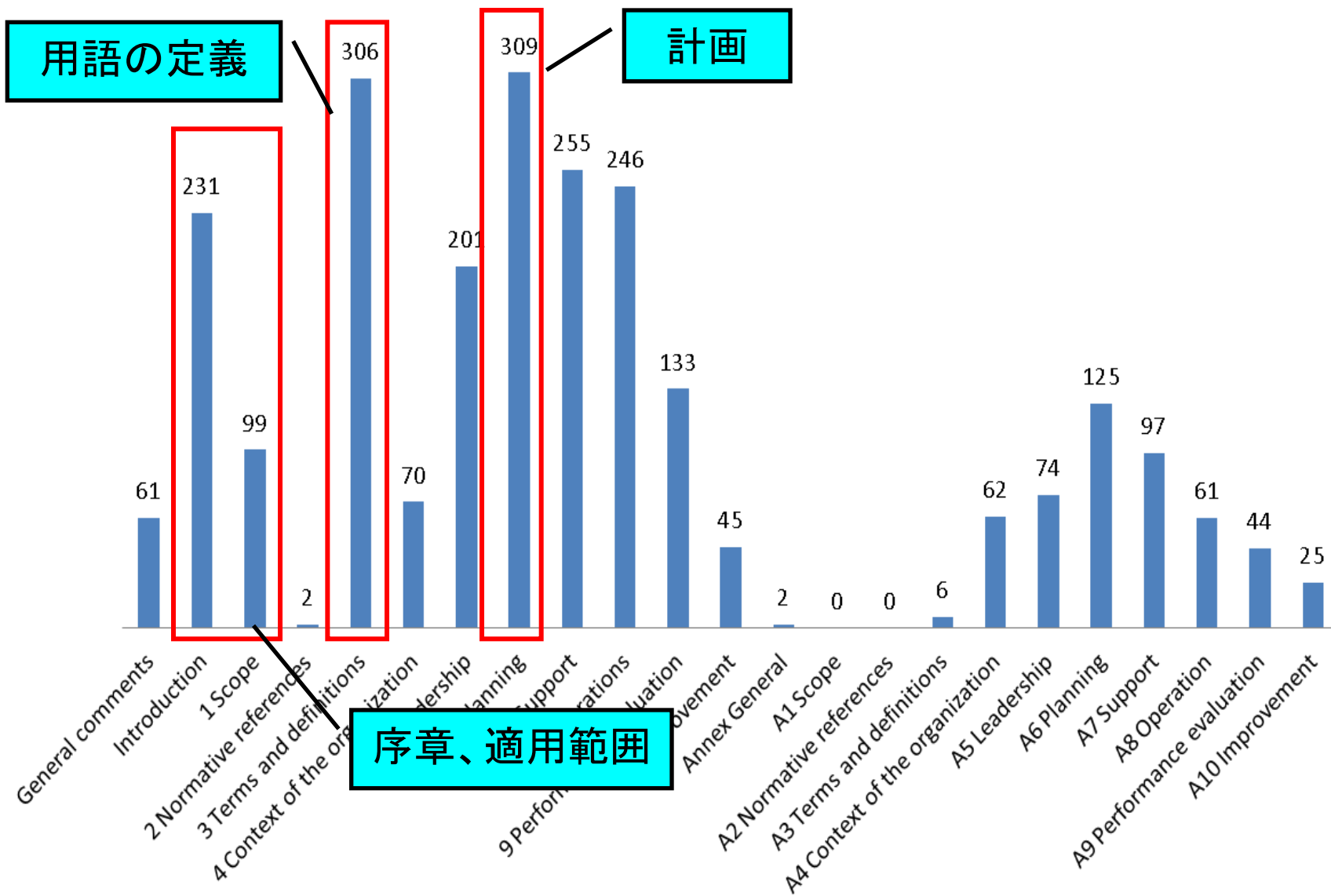
9. パフォーマンス評価

- 9. 1 監視、測定、分析及び評価
- 9. 2 内部監査
- 9. 3 マネジメントレビュー

10. 改善

- 10. 1 不適合及び是正措置
- 10. 2 継続的改善

各国からのコメント数



ハザード(危険源)

- ケガや健康障害を引き起こす可能性のある要因、状況、行為。

Worker(労働者)

組織の管理下で、労働又は労働に関する活動を行う人。

注記

- ・有給・無給、定常的・一時的、間欠的・季節的、臨時・自給制などすべて「管理下」。
- ・管理職・非管理職雇用者を含む。
- ・外部からの作業員、代理店作業員も「管理下」に含むことができる。

請負人

合意された仕様書の期間・場所に従って、組織の作業場内で事業を提供する外部の者。

注記

外部の者には個人、グループ、組織、組織集団を含むことができる。

CD→CD2の変更点(箇条6計画:下線)

6.1 リスク及び機会への取組み

6.1.1 一般

6.1.2 ハザードの特定とOHSリスクアセスメント

6.1.2.1 ハザードの特定

6.1.2.2 OHSリスクアセスメント

6.1.2.3 OHS機会

6.1.3 法的及びその他の要求事項の決定

6.1.4 OHSマネジメントシステムのためのリスクと機会

~~6.1.5 変更計画 対策実施計画~~

~~6.1.6 対策実施計画~~

6.2 OHS目標及びそれを達成するための計画

6.2.1 OHS目標

6.2.2 OHS目標を達成するための計画

6.1.2.1 ハザードの特定

ハザードの特定で考慮しなければならない事項

- a) 以下の事項を考慮に入れた定常・非定常活動と状況
 - 1. 作業場のインフラ、設備、原料、材料、物理的状況
 - 2. 研究、開発、試験、生産、組立、建設、サービス提供、保守、廃棄を含めた製品設計の結果として生じるハザード
 - 3. ヒューマンファクター
- b) 緊急事態
- c) 以下の事項を考慮に入れた人々
 - 1. 労働者、請負人、訪問者を含めた作業場にアクセスする人々及びその活動
 - 2. 作業場の近隣で、組織の活動により影響を受けるかもしれない人々
 - ⋮

6.1.2.2 OHSリスクアセスメント

組織は以下のプロセスを確立、実施、維持しなければならない。

- a) 法的及びその他の要求事項を考慮して特定されたハザードに起因するOH&Sリスクの評価、優先順位を考慮した現在の管理策の効果
- b) OH&Sリスクを除去・低減するための機会の特定

事後策より事前策として、かつ系統的に使用されることを確実にするため、組織のリスクアセスメントの手法と基準は適用範囲、性格、実施時期に関して定義されなければならない。

6.1.2.3 OHS機会

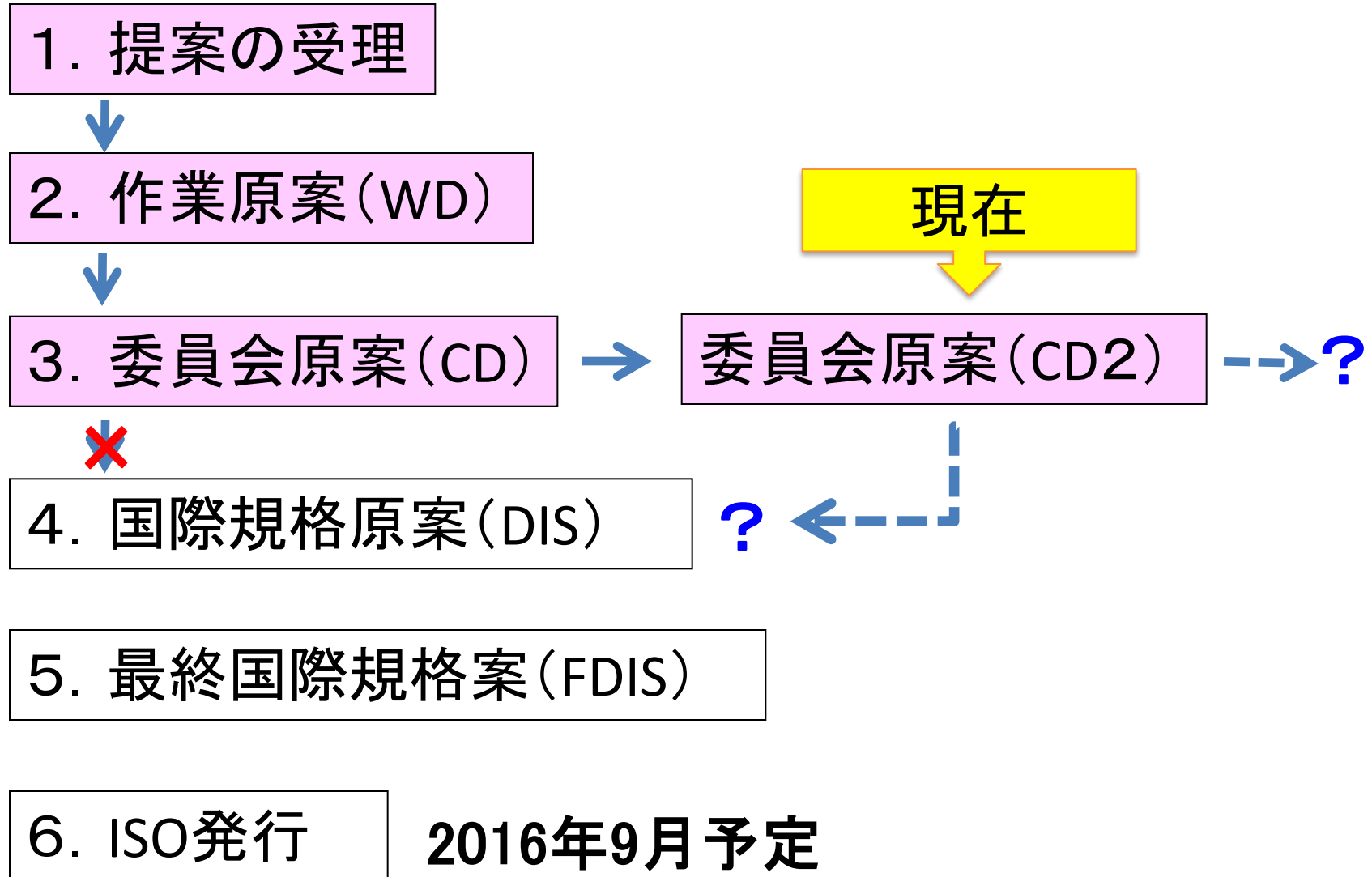
安全衛生を向上させるため、組織は以下のことを考慮し、機会を特定するためのプロセスを確立、実施、維持しなければならない。

- a) 組織、プロセス、活動の変更計画
- b) OHSリスクを除去または低減する機会
- c) 該当する場合は、作業者が作業に適応する機会

A.6.1.2.3 OHS機会の例

- ・タイムリーなインシデント報告の促進
- ・計画変更中のOHSパフォーマンスの改善
- ・要求事項を超えるOHSパフォーマンス改善とOHS力量の向上のための新技術の使用

現在の段階



進捗状況は中災防HPにて！

本文へ> サイトマップ | 利用上の注意 | リンク | English Google®カスタム検索 検索

JISHA 中央労働災害防止協会
中災防 Japan Industrial Safety & Health Association 応援します 明日の安全・健康・快適職場

ホーム	OSHMS リスクアセスメント 機械安全	健康づくり メンタルヘルスケア 快適職場づくり	ゼロ災運動 KY(危険予知)	教育 セミナー・研修会	安全衛生図書 用品(販売サイトへ)	お問い合わせ先 アクセスマップ
-----	----------------------------	-------------------------------	-------------------	----------------	----------------------	--------------------

OSHMS(労働安全衛生マネジメントシステム)について

OSHMS 適格認定は中災防マネジメントシステム審査センターへ

OSHMS JISHA OSHMS Standards Certification

OSHMS-リスクアセスメント 図書・テキスト

賛助会員入会案内

会員タウンログイン

ホーム > ISO45001開発情報

ISO45001開発情報

OSHMSのISO規格開発が進められています

2013年、労働安全衛生マネジメントシステム(以下OSHMS)のISO規格化が加盟国により承認され、現在その開発作業が行われています。中災防は、好評を得ている「JISHA方式適格OSHMS認定」を継続して強力に実施するとともに、ISO45001の認証機関となる準備も進めています。

中災防ではISOプロジェクト委員会(ISO/PC283)に日本代表エキスパートとして参加し、国内審議委員会にも委員として参画しており、最新の情報を皆様にお届けします。

名称

ISO45001 (OSHMS)

メンバーによる投票の結果、「OSHMS」17票、「OSHMS」13票、棄権7票で、OSHMSという表記が採用される。



ISO45001開発情報
労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)のISO規格化について最新情報をお届けします。

ISO45001

検索

ご清聴ありがとうございました

安全衛生に関する
お問い合わせ先

03-3452-6049

ssaito@jisha.or.jp

